

小学3年生の実践

1. 題材 さあいこう（最高）動画祭り

2. 題材について

子どもたちの得意なことなどを動画に撮って紹介していく鑑賞会である。小学3年生では、リコーダー、折り紙、工作、縄跳びやダンスなどの動画が紹介された。児童の生活に様々な動画配信が根付いており、端末などで写真や動画を撮って遊ぶような子もいる。それらを集会活動に取り入れたのがこの実践である。動画を見てもらったり、協力して撮影したりすることで、自己肯定感や所属意識を高めると、情報モラルを身につけることなど様々な効果が考えられる。

3. 指導について

①児童生徒自身が主体的に PDCA サイクルを回す。

本実践では、児童の生活の中から出てきたことをきっかけにして活動を進めていく。今回は休み時間に端末で写真や動画を撮って遊ぶ子どもたちに注目した。自然発生した子どもの遊びを個人のものだけではなく、みんなで楽しめるように共有することで、児童生徒自身の PDCA が回っていくと考える。

②自己肯定感を育む流れにする。

全員の動画を撮り合うため、全員が登場することになる。また、動画の良かったところを発表することで、お互いを認め合う雰囲気を作ることができる。良かったところを伝えてもらうことで自己肯定感も育まれていくものと考えられる。

また、動画は、失敗しても撮り直せる。成功したものが流れるので、そういった点でも、自己肯定感を育むことにつながりやすいと考える。

本実践の前に、子ども達がお互いの良いところをカードに書いて送り合う、「良いところオクリンク」などの実践を行ってきた。振り返りの場面ではこの活動を取り入れ、良いところを送り合い、肯定感を育むことにつなげたい。

③話し合い活動を設定するタイミングを工夫する。

子ども達がこの活動をやっていると思ったタイミングで話し合い活動を入れていく。「良い動画にしていこうには・・・」といった議題を盛り込むなど、教師側で視点を示しながら、話し合う必要性が高まるように工夫していく。

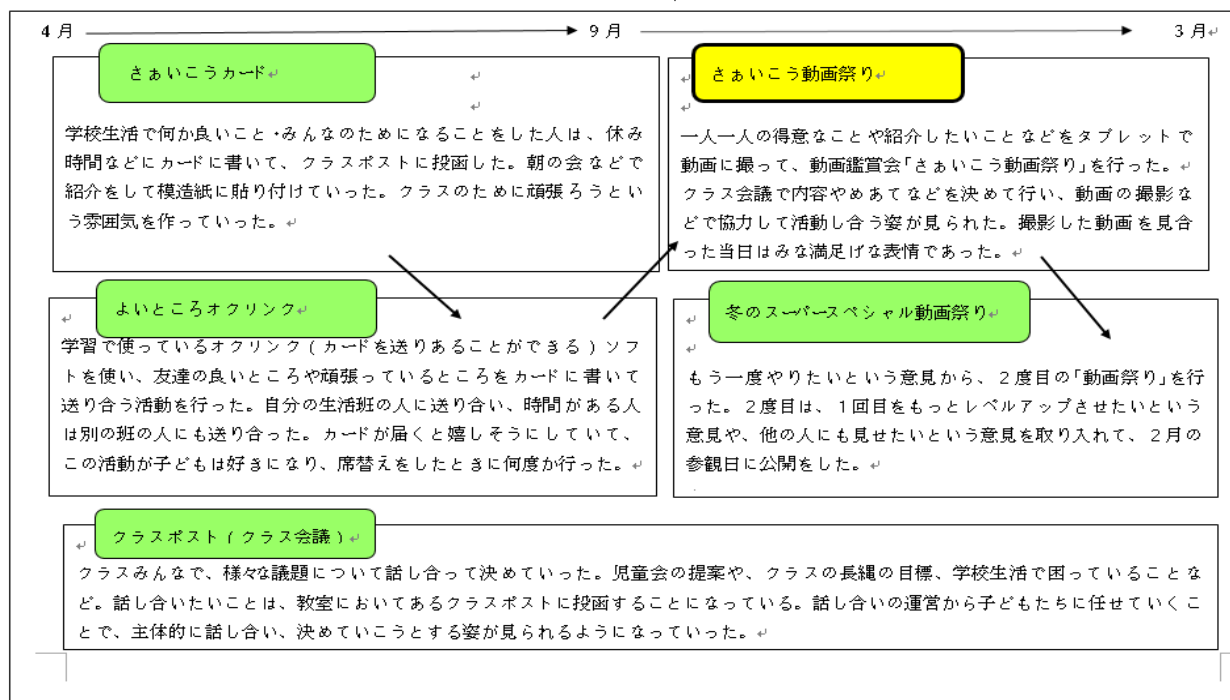
4. 特別活動の目標

第3学年及び第4学年の評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
----	-------------------	-----------------------	--------------------------

評価規準	よりよい学校生活や人間関係の形成のために、他者と協働して取り組むことの意義を理解し、行動の仕方を身に付けている。	よりよい学校生活のために生活上の問題を発見し、解決のために話し合い、合意形成したり、意思決定したりしている。	よりよい学校生活や人間関係の形成のために、集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団活動に関わっていこうとしている。
------	--	--	--

5. 年間で関連を図って扱う題材



6. 実践の実際

A クラスポスト（話し合い活動）

クラスの後ろにポストを設置して、みんなで話し合いたいことを入れられるようにした。A6サイズの紙に「困っていること・話し合いたいこと」と「名前」を書いて入れられるようにして、ポストの横に置いておいた。

4月16日（金）に話し合いの練習として第一回クラス会議を行った。ここでは話し合いのルールを確認するために、教師主導で練習を兼ねて行ったものである。議題は「一日だけ動物になれるなら」というもので、個々に考えは違うが、どの意見も尊重していくことをねらって行った。

子ども達に話し合った感想を聞くと「楽しかった」「いろいろな意見があって面白かった」など肯定的なものが多かった。

4月19日に第二回クラス会議を行った。1つは、クラスのマスコットキャラクターを作ろうということで学級目標の「協力・集中・考える、カッコイイ3年生」に合うキャラクター選び。クラスポストに提出されたいくつかの紙に「クラスで困ったこと」が書かれていたので、もう1つは、その中から最も多かった「給食中にざわざわして困る（コロナ禍での黙食）」というものを取り上げた。

3つのキャラクターが決まり、給食の配膳中・食事中・片付け中に、タイマーを計って、静かにでき

た時間を記録していくことになった。早速翌日からタイマーを計り始め、10分～20分くらいの間の記録の日が続いたが、取り組みを続けているうちに記録は伸びていき、5月19日には配膳から片付けまで60分通しておしゃべりせずに静かに過ごすことができ、タイマーが60分になった瞬間に私がタイマーを止めると歓声が上がった。

クラスの困ったことは、みんなで話し合うことで解決できるという経験を積ませてあげることが一つできた。

5月9日の議題は「係の人にありがとう」というもので、意思決定や問題解決していくものではなかったが、係が発足して1ヶ月ほどたち、それぞれの係が機能し始めたかなというところで行った。肯定的な相互評価を行うことで、自己有用感を高めたり、良いところに着目させたりすることを目的に設定した。

すべての係について良いところが出されて、お互いに頑張っていることを認め合うことができた。

またやりたいという話が拳がっていたので、係に限らず良いところを見つけていこうという取り組み「Bさあいこうカード」「Cよいところオクリンク」につながっていく。

5月12日の第4回クラス会議からは、運営（司会、副司会、黒板書記、ノート書記）を出席番号順の順番で行っていくことにした。初めて担当した運営の子たちからは「緊張した」「またやりたい」という感想が、他の子たちからも「司会をやってみたい」「黒板書記になりたいな」など意欲的な発言が聞かれた。自分たちで話し合いを行っていくことが、より意欲的な気持ちを高めたのだと考えられる。この回以降は、子ども達に運営を任せて、話し合い活動を行っていった。

5月26日の第5回クラス会議はクラスポストに出された議題から「授業中におしゃべりがうるさい」「口が悪い人がいる」「先生がいないとふざけている」など困っていることが多かったものを取り上げて、どうしたらよいか話し合った。この話し合いは議題を少しずつ変えながら第7回まで行っていた。

第6回では頑張っているところにも目を向けさせ、第7回ではみんなで頑張っていきたいことを決めた。

そこで、協力して頑張れることとして、先生がいなくても朝の会や授業の挨拶などを進めたり、休み時間に長縄に取り組んだりしていくことになった。

長縄は緊急事態宣言などコロナ禍にあって行えない期間が長く続いたが、連続記録や3分間での記録を少しずつ更新している。

<議題>

回	日	議題 ★はクラスポストの提案を受けて
1	4月16日	「一日だけ動物になれるなら」
2	4月19日	「給食を静かに食べるために★」 「マスコットキャラクターを決めよう★」
3	5月9日	「係の人にありがとう」
4	5月12日	「児童会のスローガンについて」
5	5月18日	「3年生になって成長したこと、まだ足りないこと★」
6	5月26日	「自分たちの力で生活していくために（第5回の続き）★」
7	6月7日	「協力・集中・考えるカッコイイ3年生になるために（第6回の続き）★」
8	6月25日	「運動会の児童会種目について」
9	10月22日	「動画かんしょう会をしよう」

10	12月10日	「動画かんしょう会2をしよう」
11	1月17日	「6年生を送る会について」 「ドッジボールでこまっていること」

B さあいこうカード

係の人に「ありがとう」を送った5月9日の活動では、子どもたちは「感謝されて嬉しい」「係で頑張ったことを言ってくれて嬉しい」という様子を見ることができた。

係に限らず、クラスの中で「さっさとごみを拾ってくれる人」「提出物をきれいに整えてくれる人」がいることを伝えて、その時々で教師から紹介した。

こういう良い行動を広げていくために行ったものである。学校生活で何か良いこと・みんなのためになることをした人は、休み時間などにカードに書いて、クラスポストに投函した。朝の会などで紹介をして模造紙に貼り付けていった。クラスのために頑張ろうという雰囲気を作っていた。

9月の一ヵ月ほどで模造紙2枚分のカードで埋まった。一ヵ月で終わった取り組みだが、その後も「こんなことをした」「あんなことをした」とカードを投函している子もいる。

C よいところオクリンク

学習で使っているオクリンク（カードを送りあることができる）ソフトを使い、友達の良いところや頑張っているところをカードに書いて送り合う活動を行った。

自分の生活班の人に送り合い、時間がある人は別の班の人にも送り合った。カードが届くと嬉しそうにしている、この活動が子どもは好きになり、席替えをしたときに何度か行った。

送れる楽しさ、もらえる嬉しさから、子どもたちはどんどん

送るようになり、休み時間にもやりたいという声も聞かれ、夢中で良いところを送り合っていた。

お互いの良いところに着目していこうとする子どもの姿が見られたといえる。



D さあいこう動画祭り（動画鑑賞会）

9月の緊急事態宣言が出たままの学校生活では、学習用端末（Chromebook）を使った学習も何かと多かった。そんな中で、休み時間にもタブレットでお絵描きやタイピングなどで遊ばせる機会もあった。

休み時間に youtuber のように動画を撮ろうとしている子がいたことをきっかけにして、何かこういうご時世でもみんなで楽しめることはないかと考えて実践したものである。

10月4日、運動会のダンスを撮っていた子に「良さそうなのを撮っているね、その動画を先生に送ってくれるかな」と、3年1組の classroom に送信してもらった。その後も個々に声をかけて送ってもらった。

10月21日、動画お楽しみ会という名前で、送ってもらった5つの動画をみんなで見合った。見た子は「自分もやってみたい」という気持ちをもったようで、動画鑑賞会を開くことになった。翌日の話し合い活動に向けて、課題になりそうなことも予告しておいた。どんな動画が撮れそうか、どうすればみんなで楽しめるか、などである。

10月22日、第9回クラス会議では、動画鑑賞会の名前、前日に行った「動画お楽しみ会」よりももっと良くしていくにはどうしたらよいか、いつやるのか（＋内容）を話し合った。

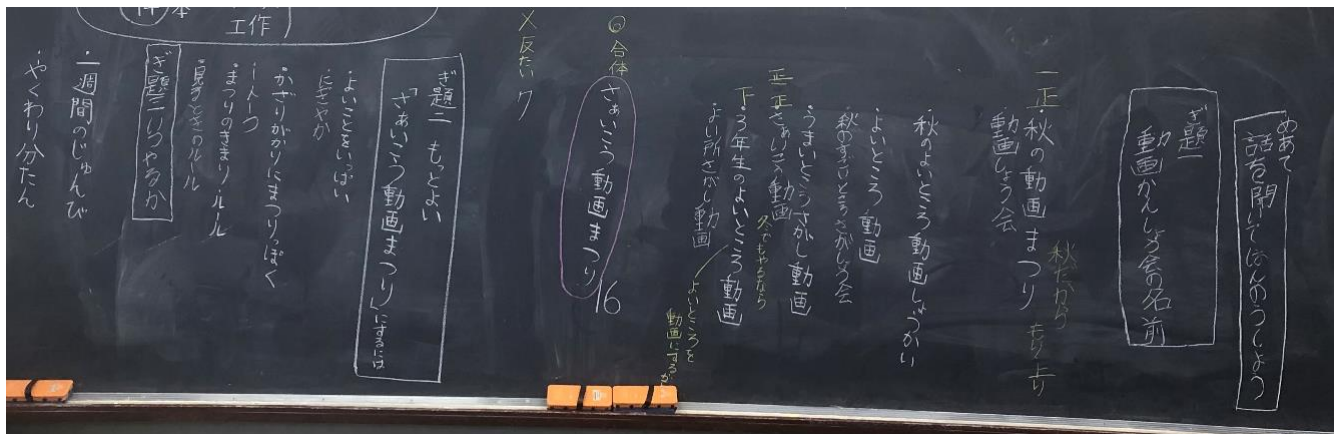
名前は「さぁいこう（最高）動画祭り」に決まり、自分の得意なことや紹介したいことで、学習・運動・工作・絵の大きく4つのジャンルに分かれて、お互いに動画を撮りあうことになった。

もっと良くしていくために、一人一つの動画を撮ることや、みんなが楽しめるようなルール作りをしていくことも決まった。

実行委員を募り、会の運営やルール作りを行った。動画は「長くても2分まで」「嫌な気持ちになる人がいない」といったことや、当日は「良いところをいっぱい見つける」「声が聞こえるように気を付けて観る」などが決まった。

10月27日総合（3・4校時）に撮影会を行った。大きく4つに分かれたグループで、撮影し合った。

- ・折り紙を折る。
- ・紙飛行機を飛ばす。
- ・絵を描く。
- ・リコーダーの演奏をする。



- ・運動（ボール・走る・体操・ダンス）をする。
- ・計算や漢字の問題を解く。

応援の声を入れたり、アナウンスをしたり、解説をしたりといった工夫もあり、何度もチェックして撮りなおすなど時間内で協力して撮り合う姿が見られた。

11月2日の学活（3校時）にさぁいこう動画祭りを行った。

中休みから、飾り担当になった子たちを中心に、飾り付けをして、始めの言葉・動画鑑賞・感想タイム・終わりの言葉というプログラムで会が進んだ。

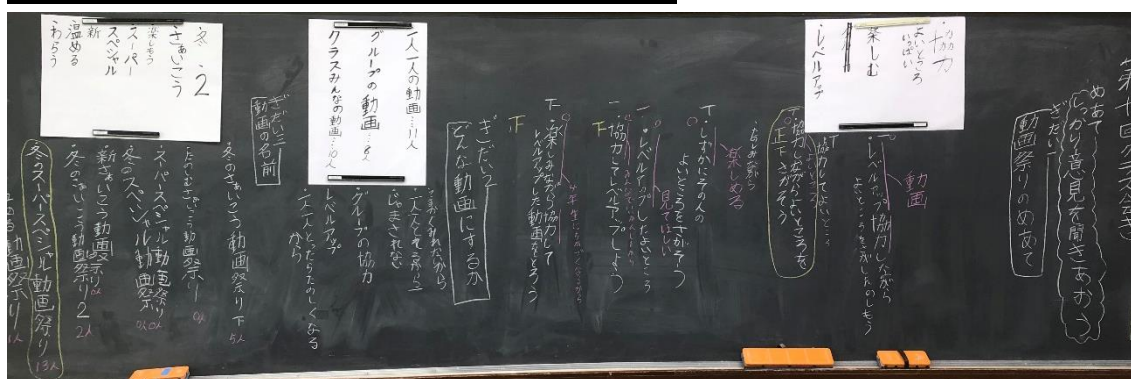
感想交流をする時間を設けて、印象に残った動画を発表し合った。子どもたちの手が次々と挙がっていき、全部の動画の良かったことが発表された。温かい雰囲気ではなくなり、「またやりたい」「もっとすごいものが撮りたい」など次につながる意見がたくさん出された。

アンケートからは次のような感想が聞かれた。



○	楽しかった。 良いところをいっぱい見つけることができた。 良い動画ばかりだった。 たくさん拍手が起きていた。 感想をいっぱい言った。 ルールを守ってできた。
△	全部のルールは守れなかった。 似ているのが結構あった。
その他	もっとレベルを上げたい。 電気を暗くして映画館みたいにしたい。 冬にもやりたい。 全員で動画に出て、いいクラスにしたい。 同じのはとらない。 もっとたくさんの動画があったらいい。 楽しい雰囲気の動画にしたい。

E 冬のスーパースペシャル動画祭り（動画鑑賞会2）



もう一度やりたいという意見から、2度目の「動画祭り」を行った。2度目は、1回目をもっとレベルアップさせたいという意見や、他の人にも見せたいという意見を取り入れて、2月の参観日に公開する予定であったが、参観が中止となり、できる範囲での実施となった。

2月に1週間の学級閉鎖となり、その間に家庭で自分の得意技を撮ってきた子が多く、学校では見られない別の側面を見せることもできていた。（ピアノ・エレクトーン・料理などなど）